

津波被災地で藻類培養

宮城県石巻市とバイオペンチャーのスメーブジャパン(仙台市、原芳道社長)は、東日本大震災で津波被害にあった石巻市内の土地を復興につなげる。

植物プランクトンの一種である「ナンノクロロプシス」を培養する。海中に生息する直径2〜5ミクロン(ミクロンは100万分の1)程度の球体

仙台のベンチャー
石巻市と共同で

2013年3月12日

で、光合成をしながら効率よくエネルギーを蓄える。健康成分のエイコサペンタエン酸(EPA)を多く含む。日本では稚魚の養殖などに使われている。

健康食品などに
新産業を育成

健康食品などに新産業を育成

リート製の複数の培養池に計300〜500トンの海水を入れ、ナンノクロロプシスを増やす。1号機は農林水産省の補助金などを使用し、牡鹿半島先端の十八成浜に建てる。市が国定公園の一部を貸し出す。

術開発会社シームピオテック社の技術を使う。コンク4月に1号機の試運転を始める。7月から本格生産に入る。年間に16トンを生産し、3年での投資回収を見込む。2号機は津波浸水区域から建設地を選定中で、出資者を募って資金調達し、年内の着工を目指す。

海水の運送や夜間警備の要員として、地元から約10人を採用する。当面は健康食品の原料として、石巻ブランドで販売する。

健康食品などに新産業を育成

健康食品などに新産業を育成

健康食品などに新産業を育成